

「国民各界各層による更なる地球温暖化防止活動の推進」関連資料

1. 「温暖化対策診断モデル事業」の進捗状況について 1
2. 地球温暖化問題に関する国民の意識 5
3. 「国民生活に係る地球温暖化対策の推進について」（国政モニター調査）の結果概要 7

1. 「温暖化対策診断モデル事業」の進捗状況について

(1) 家庭向け温暖化対策診断モデル事業

- 平成14～15年度、地域協議会温暖化対策モデル事業により、全国5都市において「温暖化対策診断モデル事業」を実施した。1年目は、地球温暖化防止活動推進員が各世帯を訪問し、各世帯のエネルギー使用量、家族構成、ライフスタイル、家電製品等の使用状況等を把握するとともに、その結果に基づき二酸化炭素排出量削減のための診断を実施した。診断では、「省エネ型の家電製品への買い換え」「冷暖房設定温度の変更」「エアコンのフィルターの掃除」など27項目（p.3参考参照）に及ぶ温暖化対策を具体的に提示した。
- 2年目は、各世帯を訪問し、診断に基づいた二酸化炭素排出削減行動の実施を各家庭にお願いした上で、二酸化炭素排出量の変化を把握した。
- その結果、地域や住宅構造の違い等によって大きなばらつきは見られたものの、本モデル事業に参加した世帯全体（世帯構成等が変化した世帯を除く689世帯）で平均すれば二酸化炭素排出量は1年目に比べて0.2%削減された。家庭部門からの排出量が1990～2002年度で全国平均年間2.4%増加している状況と比較すれば、温暖化対策診断による排出量削減効果が発揮されたと考えられる。

地域別二酸化炭素排出量の推移

実施地域	二酸化炭素削減割合
北海道旭川市	-2.1%
北海道札幌市	0.9%
千葉県袖ヶ浦市	-0.3%
大阪府岸和田市	0.6%
広島県大和町	1.4%
合計	-0.2%

(2) エコドライブ診断モデル事業

平成14年度に引き続き、札幌市と旭川市においてそれぞれ15台をたいしょうとして「IT技術利用エコドライブ診断モデル事業」を実施した。燃料噴射量、エンジン回転数、走行速度などの運転情報をIT技術により集積・解析し、それを基にエコドライブを促すための具体的で解りやすいアドバイスを電子メール等でドライバーに提供したところ、地域なばらつきがあるものの、両地域平均で見ると二酸化炭素排出量が約5.4%削減された。

地域別平均二酸化炭素排出量の推移

	北海道旭川市	北海道札幌市	平均
診断情報提供前	2.3 kg-CO ₂ /10km	2.5 kg-CO ₂ /10km	2.4 kg-CO ₂ /10km
診断情報提供後	2.2 kg-CO ₂ /10km	2.4 kg-CO ₂ /10km	2.3 kg-CO ₂ /10km
排出削減割合	-6.0%	-5.2%	-5.4%

(参考)

温暖化対策診断・対策行動実施率

温暖化対策行動		対策行動 実施率*
冷房	夏、窓の外側から日射を遮る対策をした。(すだれ、よしず、日射遮蔽フィルムなど)	9%
	冷房設定温度を以前より高めに設定するようにした。	7%
暖房	窓から熱が逃げ出しにくいようにした。(厚手のカーテンをかける、二重窓にする)	1%
	電気カーペットの下に断熱マットを敷いた。	7%
	ストーブの熱が室内で均一になるように工夫した。(扇風機で熱を循環させる)	3%
	暖房設定温度を以前より低めに設定するようにした。	6%
冷暖房	省エネルギー型エアコンを購入した。	1%
	エアコンのフィルターはこまめに掃除した。(2週間に1度ぐらいを目安に)	8%
給湯・ 厨房	シャワーを出しっぱなしにしないようにした。	11%
	同じ湯で家族全員が入り、一日に何度も湯の入れ替えをしないようにした。	0%
	自動湯張り機能や自動保温機能は各自が入浴する時にON/OFFするようにした。	1%
	風呂を沸かしたら間を置かず入るようにして、追い焚きをなるべくしないようにした。	10%
照明・ コンセント	省エネルギー型の冷蔵庫を購入した。	0%
	冷蔵庫の中がいっぱいにならないようにした。	10%
	熱いものは冷ましてから冷蔵庫に入れるようにした。	0%
	白熱灯の代わりに電球形蛍光灯を使用した。	13%
	屋外灯が必要ない時は消すようにした。(人感スイッチなどを使っている)	21%
	テレビの電源を切る時は、プラグをコンセントから抜いたり、タップスイッチを切ったりした。	26%
	ビデオデッキ、DVDプレイヤーの電源を切る時は、プラグをコンセントから抜いたり、タップスイッチを切ったりした。	17%
	ステレオ、カセット(CD、MD)デッキの電源を切る時は、プラグをコンセントから抜いたり、タップスイッチを切ったりした。	15%
	パソコンを使わない時はプラグをコンセントから抜いたり、タップスイッチを切ったりした。	10%
	携帯電話の充電器を使わない時はプラグをコンセントから抜いたり、タップスイッチを切ったりした。	8%
	冷暖房しない時期はエアコンのプラグをコンセントから抜いたり、タップスイッチを切ったりした。	10%
	ファンヒーターを使わない時はプラグをコンセントから抜いたり、タップスイッチを切ったりした。	5%
	炊飯器は長時間保温しないように心がけた。	16%
	電気ジャーポットを長時間使わない時はプラグをコンセントから抜いたり、タップスイッチを切ったりした。	12%
	暖房便座、温水洗浄便座の電源はこまめにON/OFFするようにした。	10%

* 対策行動実施率: 1年目の診断書でこの対策を推奨した世帯のうち、2年目調査時点で実際にその対策行動を実施した世帯の割合

2. 地球温暖化問題に関する国民の意識

(1) 地球環境問題についての関心

年度	平成14年度	平成13年度	平成10年度
調査名	国民生活モニター調査	地球温暖化防止とライフスタイルに関する世論調査	地球環境とライフスタイルに関する世論調査
回答	関心がある … 64.0 % ある程度関心がある … 32.3 % 小計 … 96.3 %	関心がある … 40.2 % ある程度関心がある … 42.2 % 小計 … 82.2 %	関心がある … 42.1 % ある程度関心がある … 39.9 % 小計 … 82.0 %

(2) 京都議定書の認知

年度	平成15年度	平成13年度	平成10年度
調査名	国政モニター調査	地球温暖化防止とライフスタイルに関する世論調査	地球環境とライフスタイルに関する世論調査
回答	知っていた … 56.1 % 言葉だけは聞いたことがあった … 38.8 % 小計 … 94.9 %	知っている … 19.8 % 言葉だけは聞いたことがある … 47.4 % 小計 … 67.2 %	よく知っている … 14.6 % 大体知っている … 34.8 % 小計 … 49.4 %

(3) 温室効果ガスの排出量の増加についての知識

年度	平成15年度	平成13年度
調査名	国政モニター調査	地球温暖化防止とライフスタイルに関する世論調査
回答	知っていた … 71.0 %	知っている … 41.9 %

(4) 日常生活・家庭で地球温暖化対策に取り組む意志

年度	平成15年度	平成14年度	平成13年度	平成10年度
調査名	国政モニター調査	国民生活モニター調査	地球温暖化防止とライフスタイルに関する世論調査	地球環境とライフスタイルに関する世論調査
回答	積極的に取り組みたい … 47.8 % できる部分があれば取り組みたい … 51.6 % 小計 … 99.4 %	積極的に取り組む … 28.7 % できる部分があれば取り組む … 70.0 % 小計 … 98.7 %	積極的に取り組む … 9.6 % できる部分があれば取り組む … 70.4 % 小計 … 79.6 %	積極的に取り組む … 7.7 % できる部分があれば取り組む … 66.4 % 小計 … 74.1 %

◇各調査の基礎データ

平成10年度 「地球環境とライフスタイルに関する世論調査」

○対象 : 全国の20歳以上の者 3,000人

○有効回答数 : 2,131人

平成13年度 「地球温暖化防止とライフスタイルに関する世論調査」

○対象 : 全国の20歳以上の者 3,000人

○有効回答数 : 3,541人

平成14年度 「省資源・省エネルギーと国民生活に関する意識調査」(国民生活モニター調査)

○対象 : 各都道府県の国民生活モニター 2,300人

○有効回答数 : 2,250人

平成15年度 「国民生活に係る地球温暖化対策の推進について」(国政モニター調査)

○対象 : 全国の国政モニター 550人

○有効回答数 : 335人